

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市愛子児童館	
2 指定管理者	公益財団法人仙台ひと・まち交流財団	
3 指定期間	平成29年4月1日～令和4年3月31日	
4 施設の利用状況	《利用者数》	・ 令和3年度 18,917人（前年度比 96.7%） ・ 令和2年度 19,562人 ・ 令和元年度 31,647人
	《事業》	・ 児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業
5 収支の状況	《費用》	・ 指定管理者に支払った費用 55,706千円（65,478千円） ・ その他市が負担した費用 0千円（0千円）
	《収入》	・ 使用料収入 0千円（0千円） ・ その他収入 0千円（0千円）
6 利用者の声	《実施状況》 ・ 利用者アンケート、児童館運営懇談会、児童クラブ保護者懇談会を実施。	

()は前年度決算額

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議、チェックシート等で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	23/23
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備と安全面の配慮が行われており、家庭や学校と情報共有を図り連携した育成支援に努めている。また、乳幼児向けの交流の場を工夫するなど、子育て家庭を支援するとともに、子育て支援クラブをはじめとする地域組織・団体・住民・関係機関との連携、相互交流を図りながら児童館の運営に取り組んでいる。	18/18

三 評価総括

《指定管理者（公益財団法人仙台ひと・まち交流財団）による自己評価》
<p>「安全・安心な地域の集いの場づくり～いろいろな地域の方との関わりを通して子どもの社会性を育む～」を重点目標に感染症拡大防止策を講じながら児童館運営に取り組みました。まず、子育て家庭支援事業としては「ほっとタイム」「すてっぷタイム」「じゃんぷタイム」を5月から人数を制限した上で実施することができました。また、乳幼児を対象にした「赤ちゃんルーム」も遊具等を充実して7回実施することができました。幼児クラブは12組の登録があり、火曜日に11回活動することができました。年齢に合わせた工作や運動遊び、七夕や夏祭り、クリスマス等季節の行事を取り入れた企画は大好評で子育ての負担軽減や孤立感の解消につながることができました。令和3年度は更に「レゴルーム」を新設し、学区外から毎回楽しみに登館するご家庭もあったので、次年度も引き続き設定していきます。参加者からも「家庭では味わえない活動に参加できて良かったです」「他の保護者との交流を通して友達を作ることができました」「悩みを相談できる先生方がいるので心強いです」等々のご意見を頂戴しました。放課後児童健全育成事業については、感染症拡大防止についてお互いの距離を確保することはもちろん児童館の過ごし方について子ども達に自ら考えさせたり、学年毎に生活の場を設定したりすることで「安心・安全な居場所づくり」に努めました。行事については、参加人数を限定した上で「わくわくひろば」として野菜づくりやカボチャでハロウィン、簡単工作昔遊びなどの活動を行うことができました。外遊びでは、異学年交流の場を意図的に設定し鬼ごっこやドッチビー等の集団遊びを通して社会性を育むように配慮しました。また帰りの会では、毎回職員が読み聞かせをして読書に親しませる努力を積み重ねています。令和3年度も感染症拡大防止を最優先にしながら、充実した活動を展開することができたのも全職員の力の賜物です。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に係るまん延防止重点措置や宮城県・仙台市緊急事態宣言、宮城県緊急特別措置などの発令があったが、児童クラブに関しては、年間を通して受け入れを行った。この間、小学生や乳幼児親子の自由来館などは一部休止していたが、解除後も小学生の自由来館は土曜日のみ、乳幼児親子は平日午前のみと制限のある再開となった。年間を通して、感染症対策のための参加人数の制限や環境の工夫を行うなど様々な配慮と努力をしながらの児童館運営だった。</p> <p>児童健全育成事業においては、伝統行事や伝承遊び、工作などを行う「わくわくひろば」と集団ゲームやフラフープなど友達と関わりながら運動遊びを楽しむ「レッツエンジョイスポーツ」をコロナ禍において、児童クラブ対象で行い事業継続を図った。</p> <p>子育て家庭支援事業においては、「赤ちゃんルーム」を設定し、0歳児の自由来館受け入れに配慮した。また、今年度から月1回「レゴルーム」を設けたところ、他地域からも多くの乳幼児親子が訪れ好評を得た。職員が担当し、手遊びや体操など行う「あいあいタイム」は気軽にリラックスして参加しやすい雰囲気作りに努めている。</p> <p>地域交流推進事業においては、広瀬マイスクールと共催して行われた小学生親子対象の「わくわく体験隊」では、ザリガニ釣りを「わくわく探検隊」では愛子の森を探検に行こうを開催し、近隣の自然環境を生かし親子で自然に触れ合う場を提供している。また、講師を招いて「親子で凧作り教室」を行うなど地域の方々と共に子どもの育ちを支援している。</p> <p>放課後児童健全育成事業においては、登館後のスケジュールを自己決定し見通しを持って生活している。また、本館、サテライトの構成においては異学年が交流できるように工夫されている。継続児童も保護者面談を行い、保護者とじっくり向き合い子どもの情報を共有し、保護者が安心して子育てと仕事の両立ができるように支援している。</p>	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：子供未来局子供育成部児童クラブ事業推進課